

苫小牧市地域福祉計画のアンケート結果

I 調査の概要

1 目的

すべての市民が安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、平成 22 年 3 月に策定した「苫小牧市地域福祉計画」を改定するにあたり、地域福祉に対する市民の意識を把握することにより、具体的な計画改定のための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査内容（全 27 問）

- (1) 回答者の属性
- (2) 地域への関わりと地域活動に対する考え方
- (3) 地域福祉に対する考え方と参加意向
- (4) 生活課題とその解決方法など
- (5) 福祉サービスについて

3 対象者

18 歳以上の市民（無作為抽出）2,000 名

※抽出の基礎となる住民基本台帳データは、平成 26 年 7 月 24 日現在のものを使用

4 実施方法

調査票の配布、回収とも郵送方式

5 実施期間

平成 26 年 8 月 1 日から平成 26 年 8 月 31 日まで

6 回収件数及び回収率

778 件（38.9%）

※ 図表内の割合を示す数値は、全て百分率（%）で表し、小数点以下を四捨五入しています。

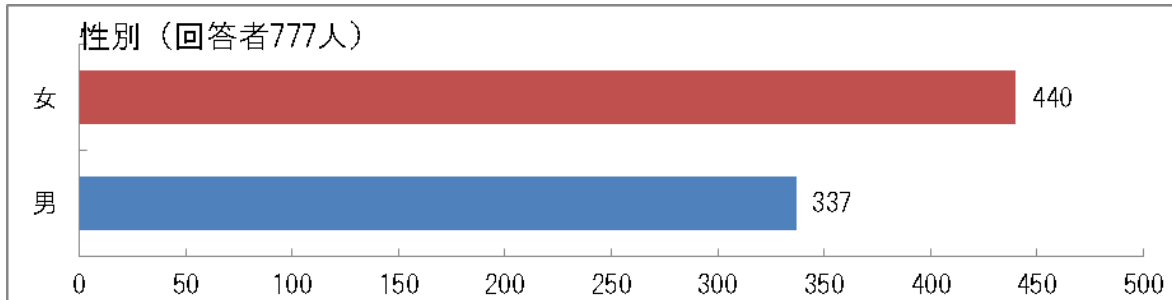
そのため、合計値は必ずしも 100 になりません。

Ⅱ 調査結果の概要

1 あなたご自身についての質問です。

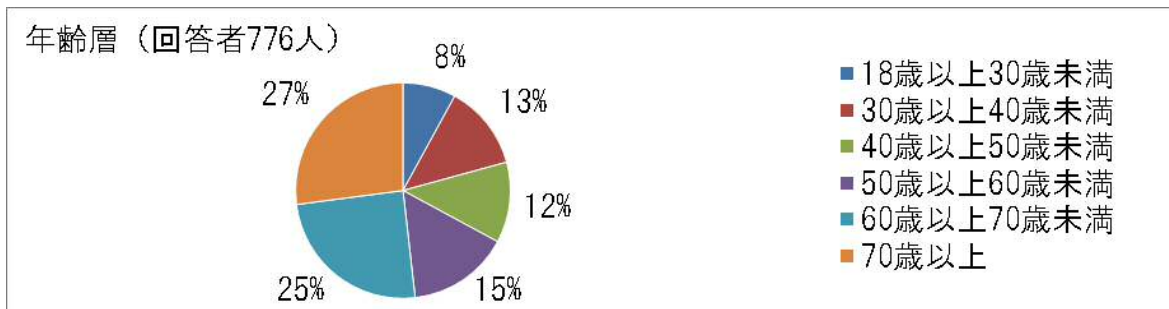
問1：あなたの性別をおしえてください。

住民基本台帳の比率よりやや女性が多く、前回調査時とほぼ同じ比率となっています。



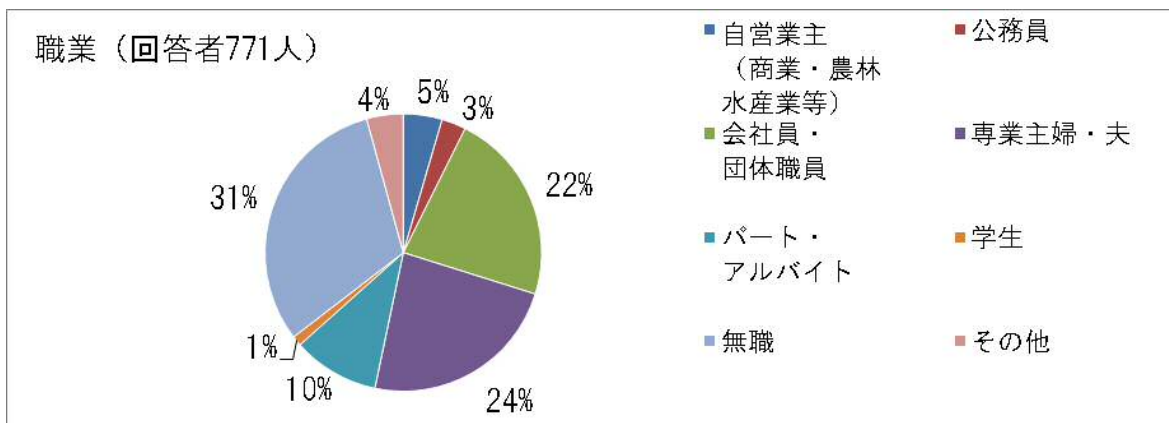
問2：あなたの年齢をおしえてください。

「70歳以上」が27%、ついで「60歳以上70歳未満」が25%という結果になっており、前回調査時と同様、60歳以上が約半数を占めています。



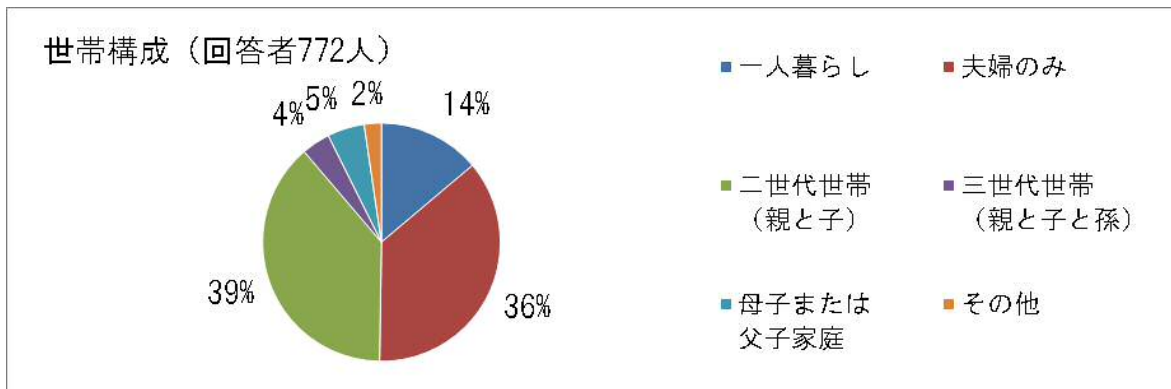
問3：あなたの職業をおしえてください。

「無職」が31%、ついで「専業主婦・夫」が24%となっており前回調査時より「無職」が増加・「会社員・団体職員」が減少という結果になっています。



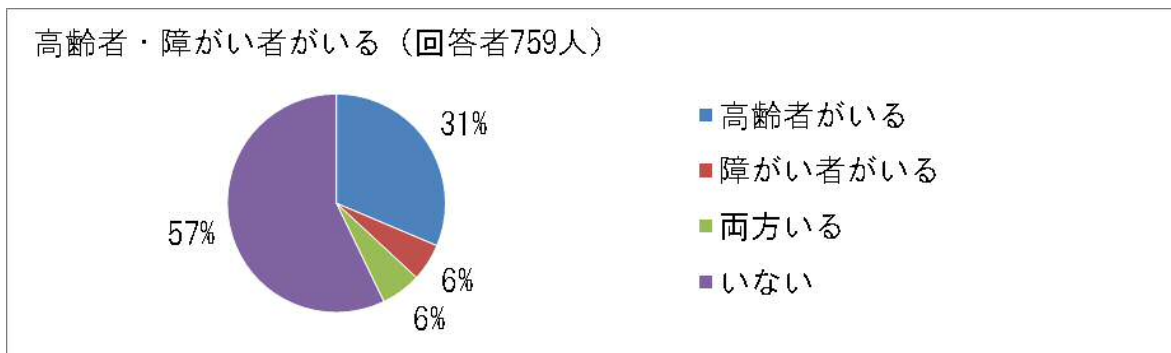
問4：あなたの世帯構成をおしえてください。

前回調査時より「二世帯世帯」が減少し39%、ついで「夫婦のみ」が増加し36%という結果になっており、核家族化の進行がみられます。



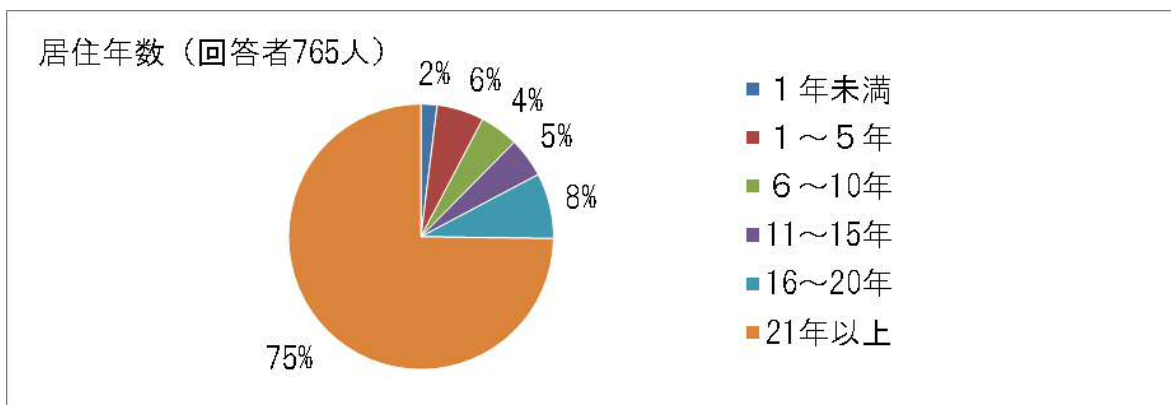
問5：あなたの世帯に高齢者（65歳以上の方）・障がい者の方はいらっしゃいますか。

前回調査時より「いない」が減少し57%、「高齢者がいる」が増加し31%という結果になっております。



問6：あなたの苫小牧市での居住年数をおしえてください。

「21年以上」が75%という結果になっております。

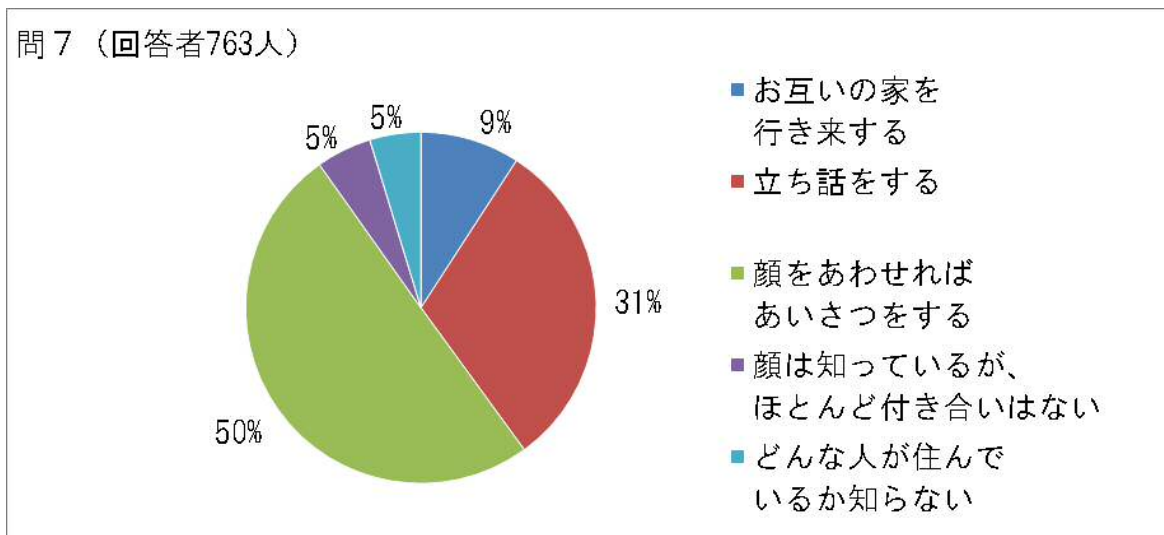


2 地域への関わりと地域活動に対する考え方についての質問です。

問7：あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。

(1つ○で囲んでください)

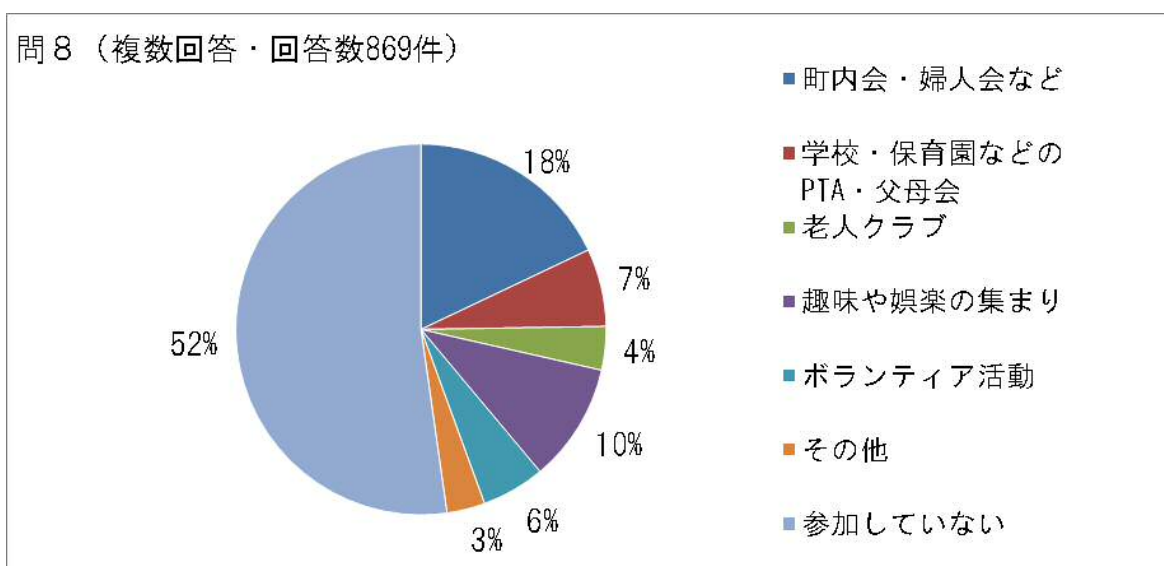
「顔をあわせればあいさつをする」が50%、ついで「立ち話をする」が31%となっており、何らかのつきあいがある方が前回同様、約9割を占めています。



問8：あなたは、いまどのような地域の活動に参加していますか。

(参加しているものすべてを○で囲んでください。)

「参加していない」が52%、「町内会・婦人会など」が18%となっており、前回同様の状況となっています。



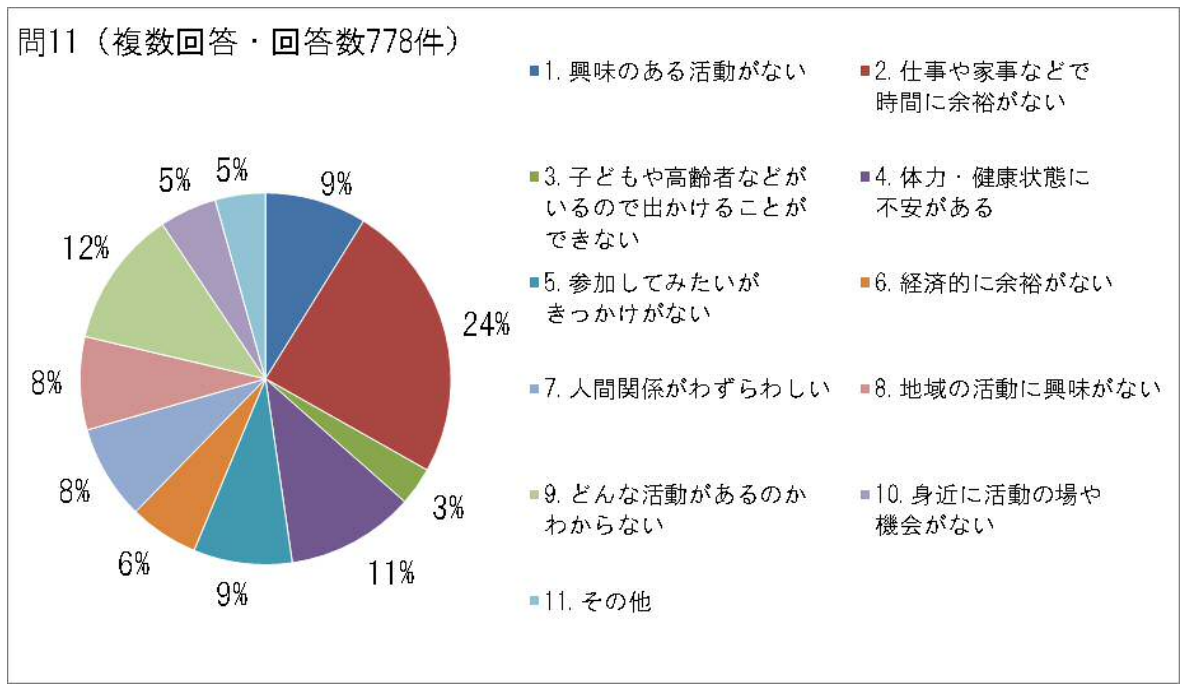
問11：（問9で「4 まったく参加していない」と答えた方への質問）

あなたが参加していない理由は何ですか。（○は3つまで）

「仕事や家事などで時間に余裕がない」が24%、ついで「どんな活動があるのかわからない」が12%、「体力・健康状態に不安がある」が11%という結果になっています。

参加しないことの傾向として、

- ①時間・経済・健康の面で余裕がない（2・3・4・6） 44%
 - ②興味のある活動やきっかけ、情報が無い（1・5・9・10） 35%
 - ③人間関係がわずらわしい、活動に興味がない（7・8） 16%
- と大きく分けて3つの傾向を示しています。

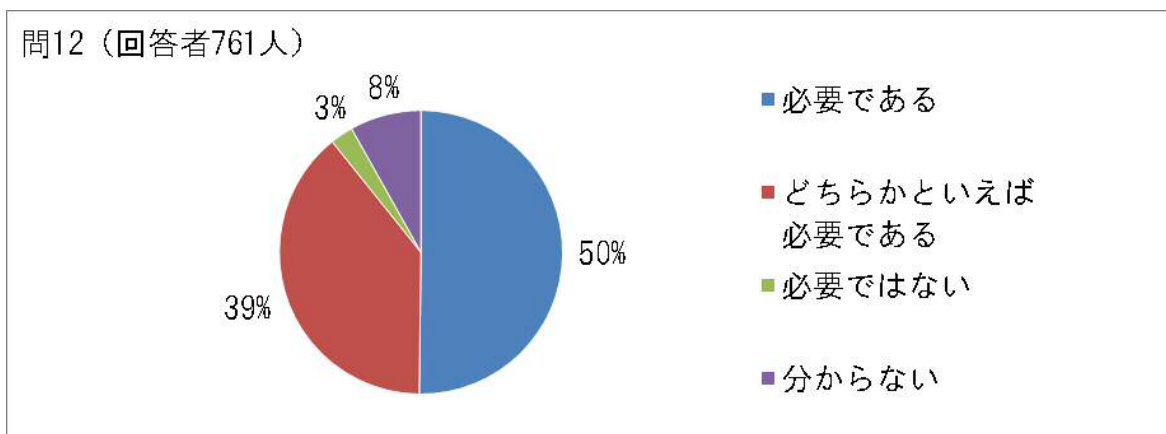


3 地域福祉に対する考え方と参加意向についての質問です。

問12：あなたは、地域でのごみ収集や除草・除雪などの奉仕活動についてどう
思いますか。

(1つ○で囲んでください。)

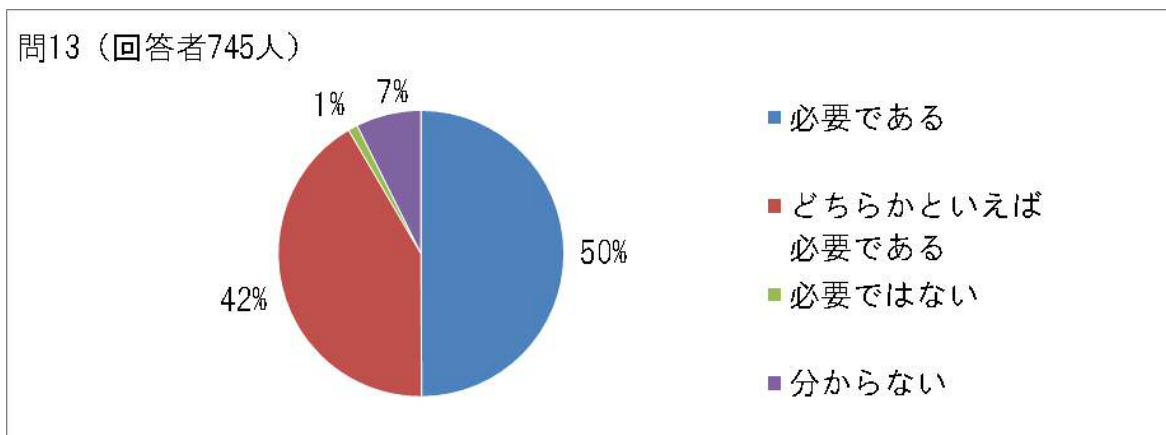
「必要である」が50%、「どちらかといえば必要である」が39%と約9割が
必要性を感じているという結果となっています。



問13：あなたは、地域で起きている様々な福祉関係の課題（障がい者・高齢者の生活、
子育て、健康づくりに関する問題など）に対し、地域住民が自主的に支え合い、
助け合うことが必要であると思いますか。

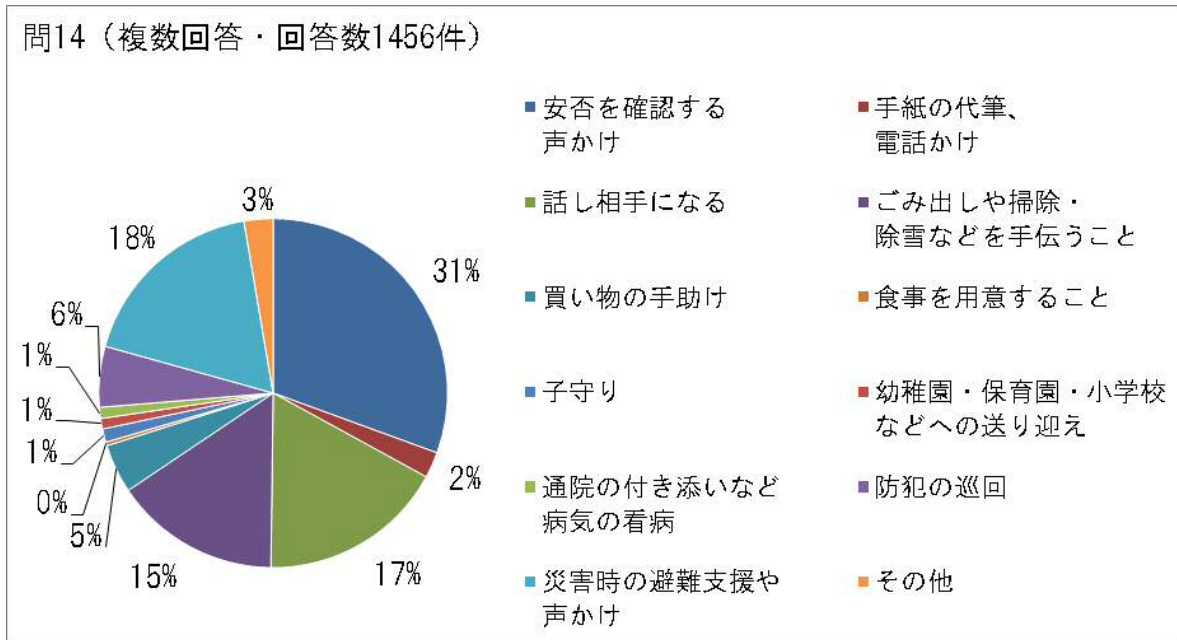
(1つ○で囲んでください。)

「必要である」が50%、「どちらかといえば必要である」が42%と約9割が
必要性を感じているという結果となっています。



問14：高齢者や障がい者・子どもなどがある近所の世帯に対して、あなた自身が支えたり助けられることができると思うことは何ですか。（○は3つまで）

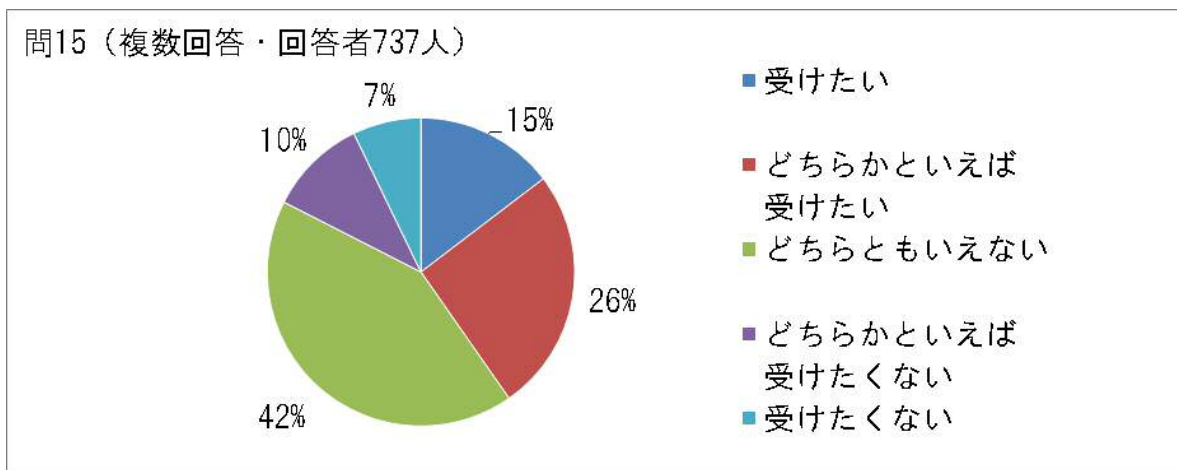
「安否を確認する声かけ」が31%、ついで「災害時の避難支援や声かけ」が18%という結果であり、約半数を占めています。また、「話し相手になる」が17%、「ごみ出しや掃除・除雪などを手伝うこと」が15%と比較的手軽に出来ることが3割を占めています



問15：あなたは、問14の回答（1～12）に例示されているような地域住民による支援や手助けを受けたいと思いますか。

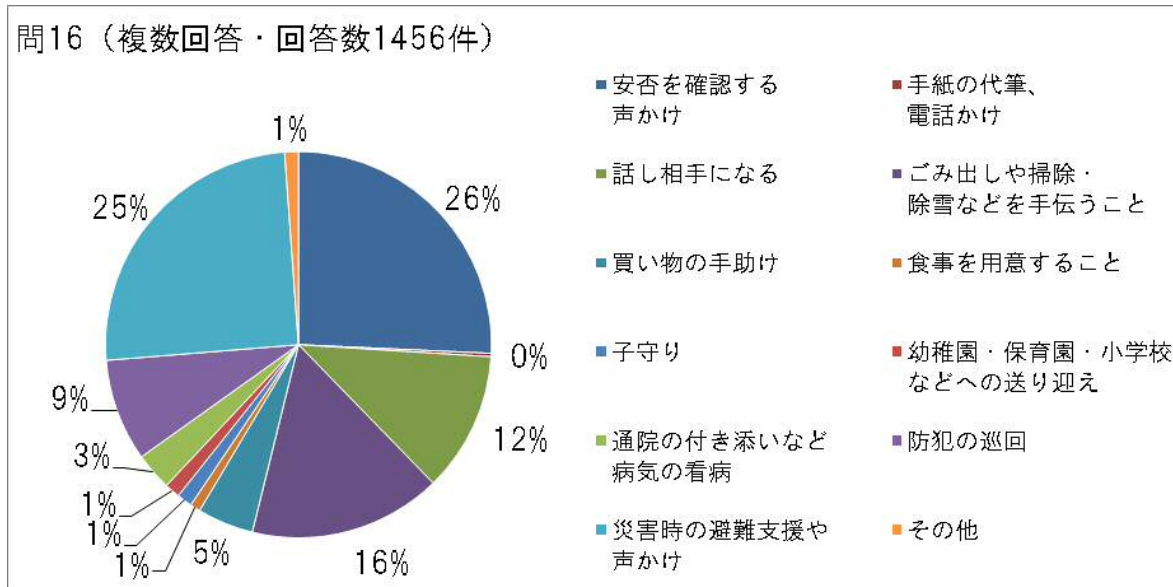
（1つ○で囲んでください。）

「どちらともいえない」が42%、「どちらかといえば受けたい」が26%という結果になっています。



問16：（問15で「1 受けたい」・「2 どちらかと言えば受けたい」と答えた方への質問）
 あなたが受けたいと思う支援や協力は何か。（○は3つまで）

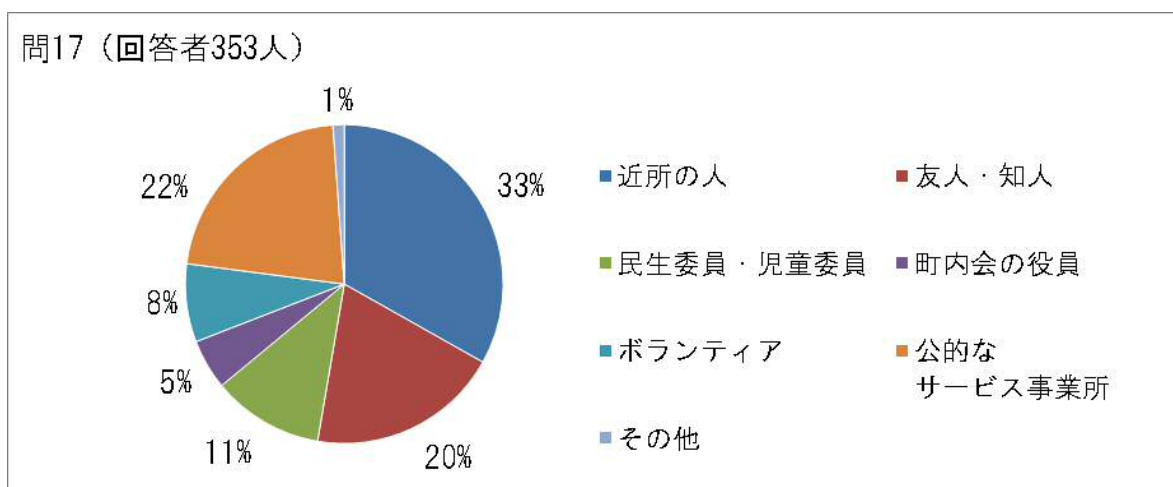
「安否を確認する声かけ」が26%、ついで「災害時の避難支援や声かけ」が25%という結果であり、約半数を占めています。また、「ごみ出しや掃除・除雪などを手伝えること」が16%、「話し相手になる」が12%と、問14の「自身ができること」と「受けたいこと」がほぼ一致するという結果になっています。



問17：（問15で「1 受けたい」・「2 どちらかと言えば受けたい」と答えた方への質問）
 それらの支援や協力を主に誰にしてほしいと思いますか。

（1つ○で囲んでください。）

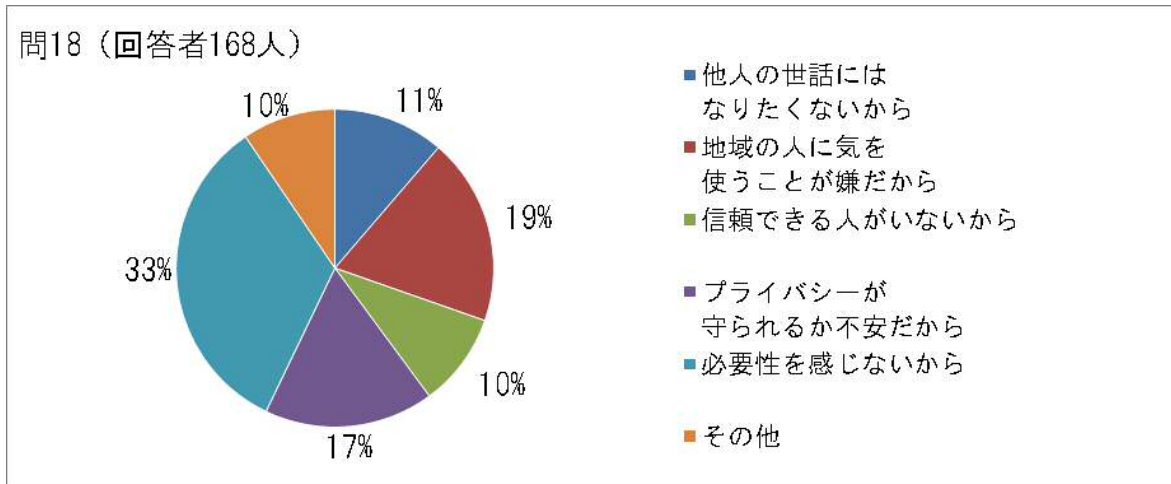
「近所の人」が33%、「友人・知人」が20%と約半数が身近な人を選択しています。また「公的なサービス事業所」も22%という結果になっています。



問18：（問15で「4 どちらかと言えれば受けたくない」・「5 受けたくない」と答えた方への質問）

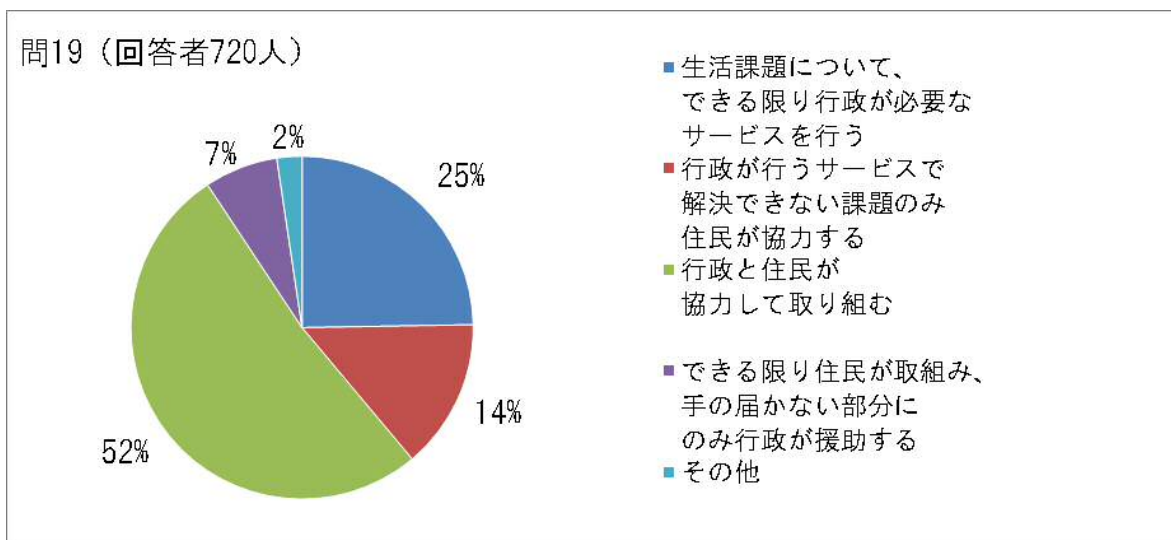
あなたが受けたくない理由は何ですか。（1つ〇で囲んでください。）

「必要性を感じない」が33%、ついで「地域の人に気を使うことが嫌だから」が19%という結果になっています。また前回調査時より「プライバシーが守られるか不安だから」が9%から17%と大きく増加しています。



問19：地域における福祉を充実させていく上で、行政と地域住民の関係は、どのようなものが望ましいと思いますか。（1つ〇で囲んでください。）

「行政と住民が協力して取り組む」が52%、ついで「生活課題について、できる限り行政が必要なサービスを行う」が25%となっており、行政との関わりを必要とする回答が約9割を占めています。

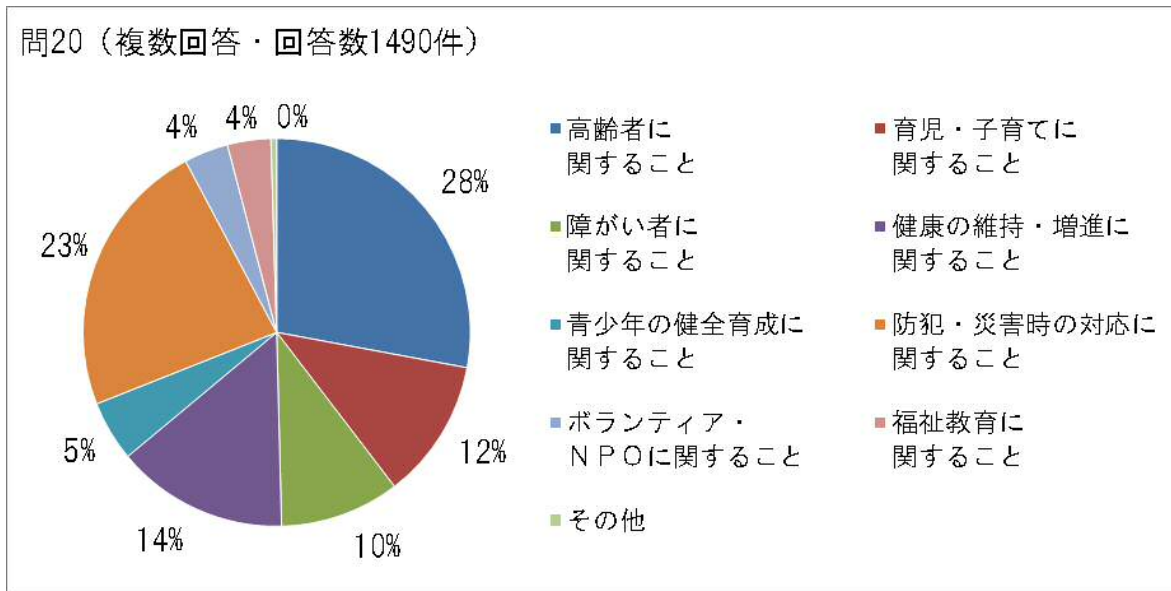


4 生活課題とその解決方法などについての質問です。

問 20：あなたは、福祉の分野で、どのような関心がありますか。（○は3つまで）

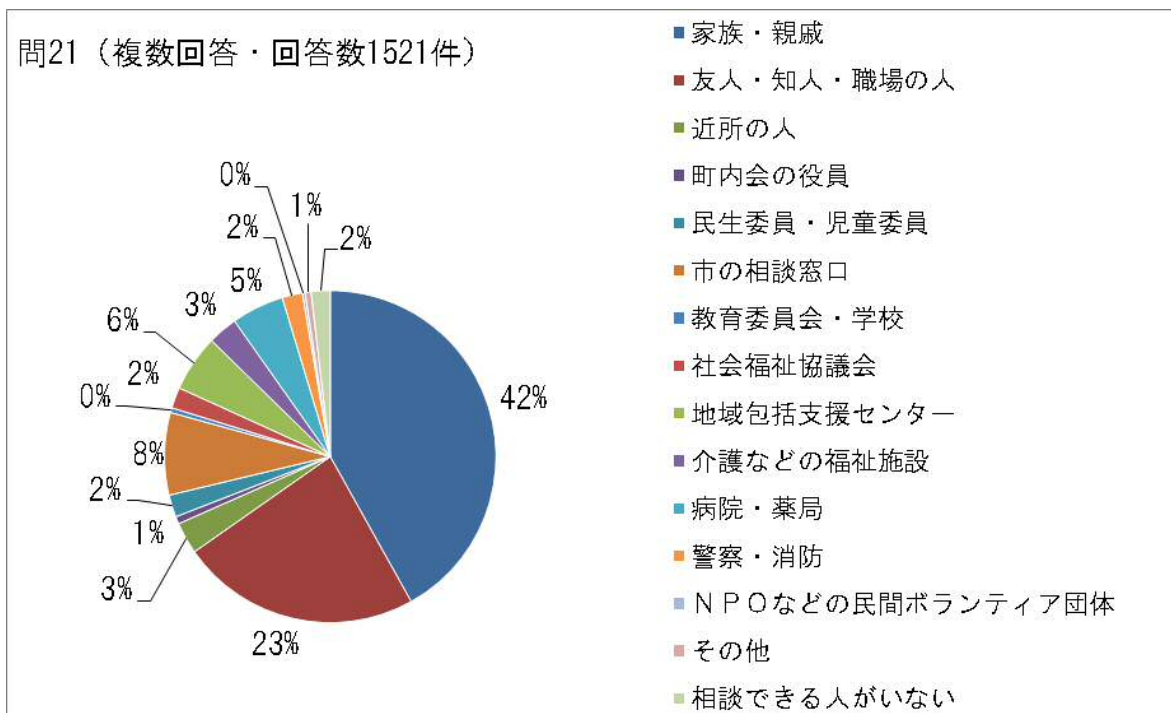
1 から 8 を○で囲んだ場合には、差し支えなければ具体的な内容をお書きください。

「高齢者に関すること」が 28%、ついで「防犯・災害時の対応に関すること」が 23%という結果になっています。



問 21：悩みや不安を感じたとき、誰に相談したいと思いますか。（○は3つまで）

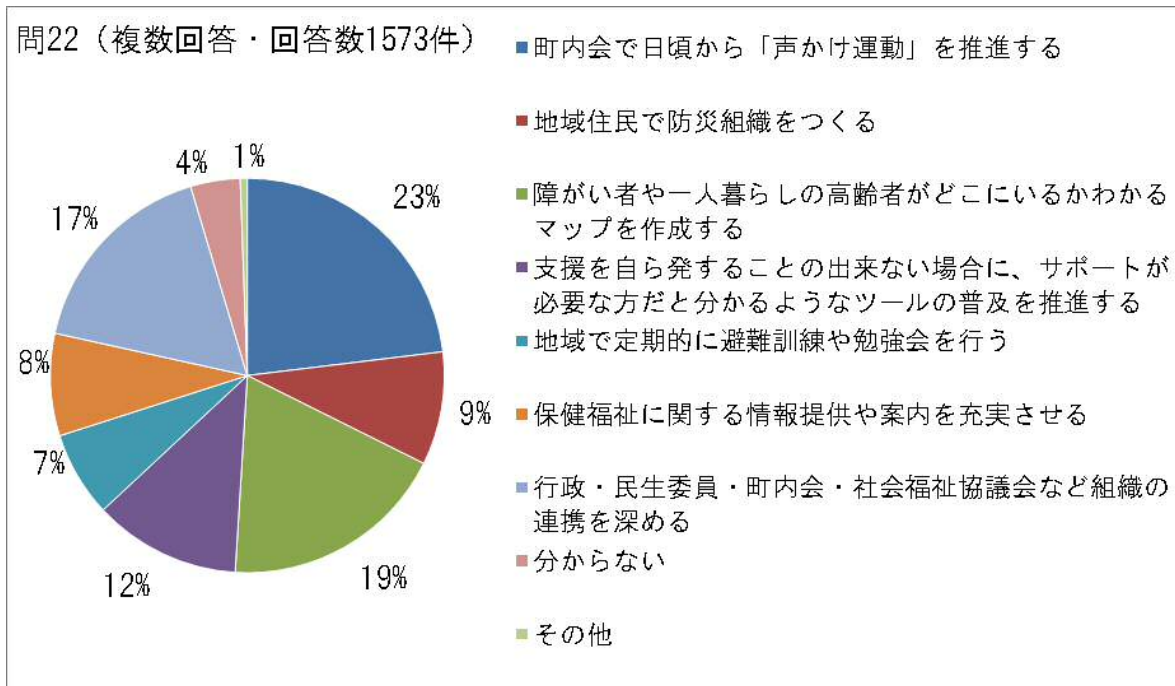
「家族・親戚」が 42%、ついで「友人・知人・職場の人」が 23%という結果となっており、約 6 割が身近な人を選択しています。



問 22：災害時や緊急時において、障がい者や一人暮らしの高齢者に対して避難や安否確認などの支援を行うためには、どのような体制をつくるのがよいと思いますか。

(○は3つまで)

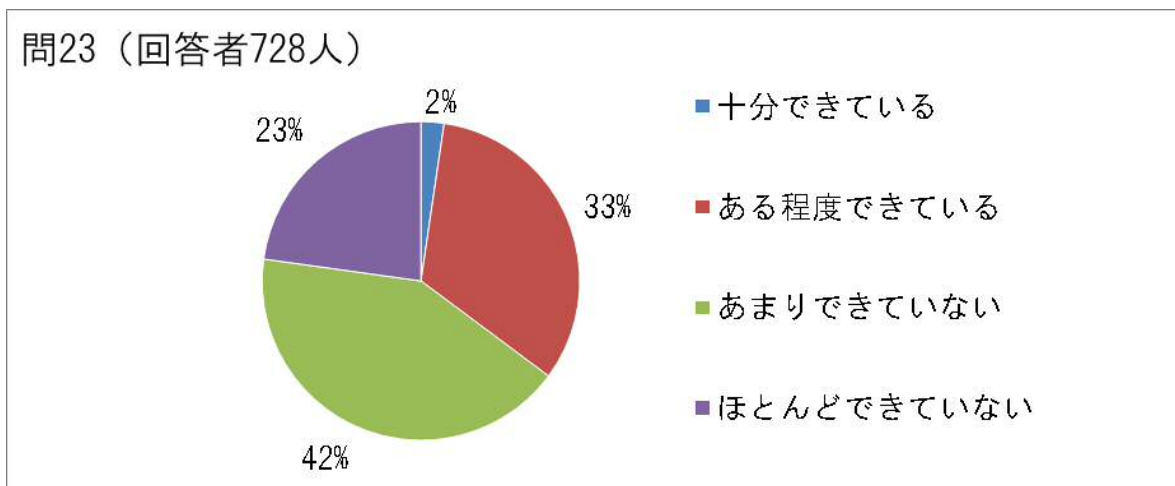
「町内会で日頃から「声かけ運動」を推進する」が23%、ついで「障がい者や一人暮らしの高齢者がどこにいるかわかるマップを作成する」が19%、「行政・民生委員・町内会・社会福祉協議会など組織の連携を深める」が17%という結果になっています。



問 23：福祉のサービスや施設などについて必要な情報は、入手できていますか。

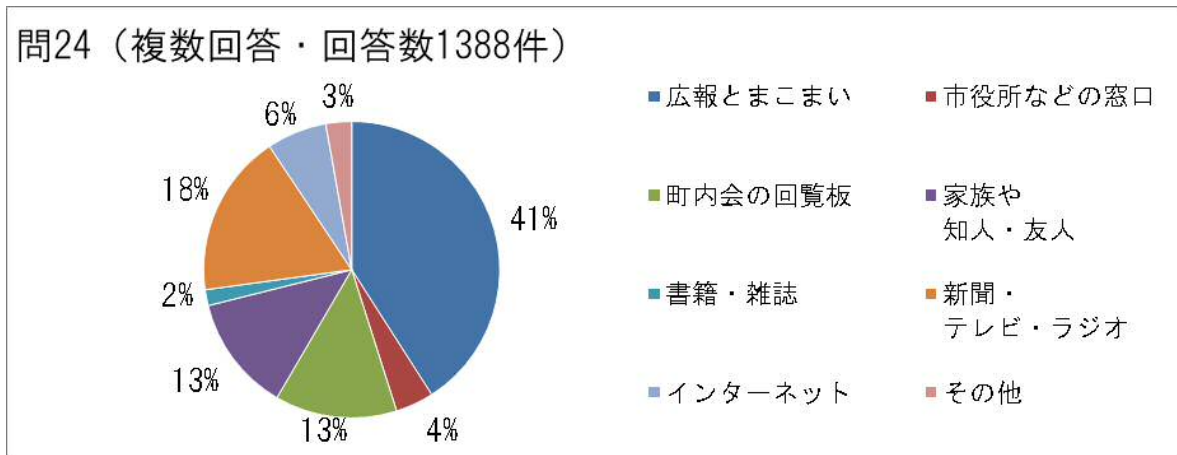
(1つ○で囲んでください。)

「あまりできていない」が42%、ついで「ある程度できている」が33%、「ほとんどできていない」が23%と約6割が不足を感じている結果となっています。



問 24：福祉に関する情報を、どのような方法で得ていますか。具体的にお書きください。
 (○は3つまで)

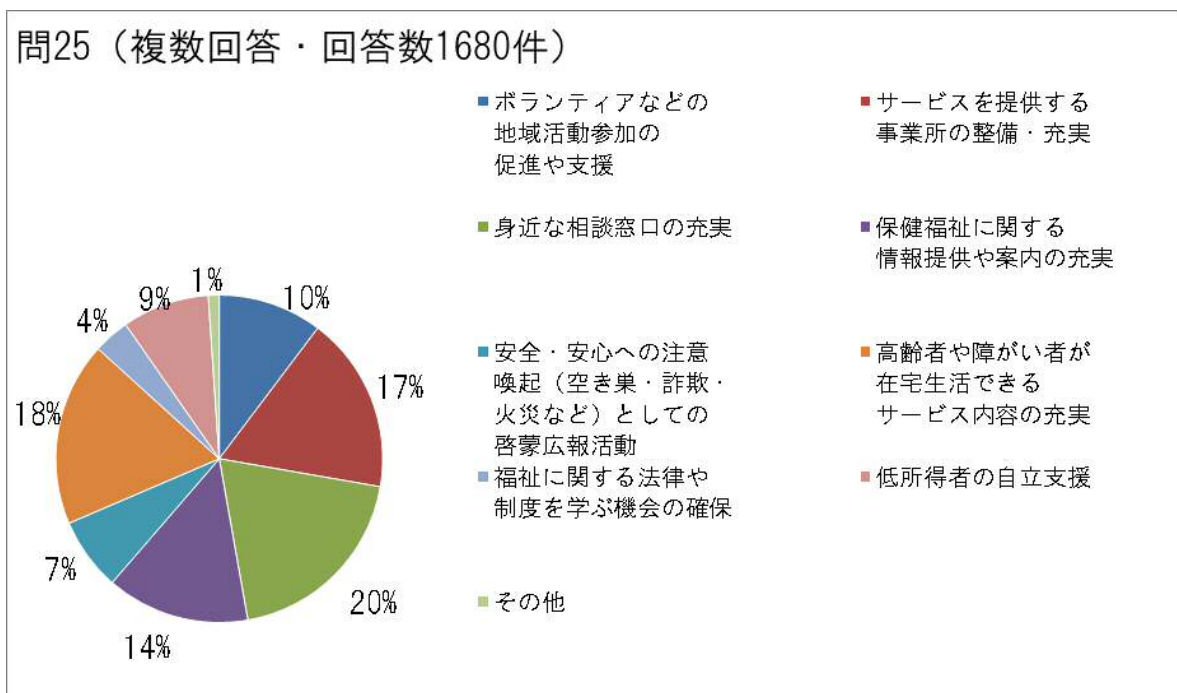
「広報とまこまい」が41%、ついで「新聞・テレビ・ラジオ」が18%であり、
 広報とまこまいが有効な手段であるという結果になっています。



5 福祉サービスについての質問です。

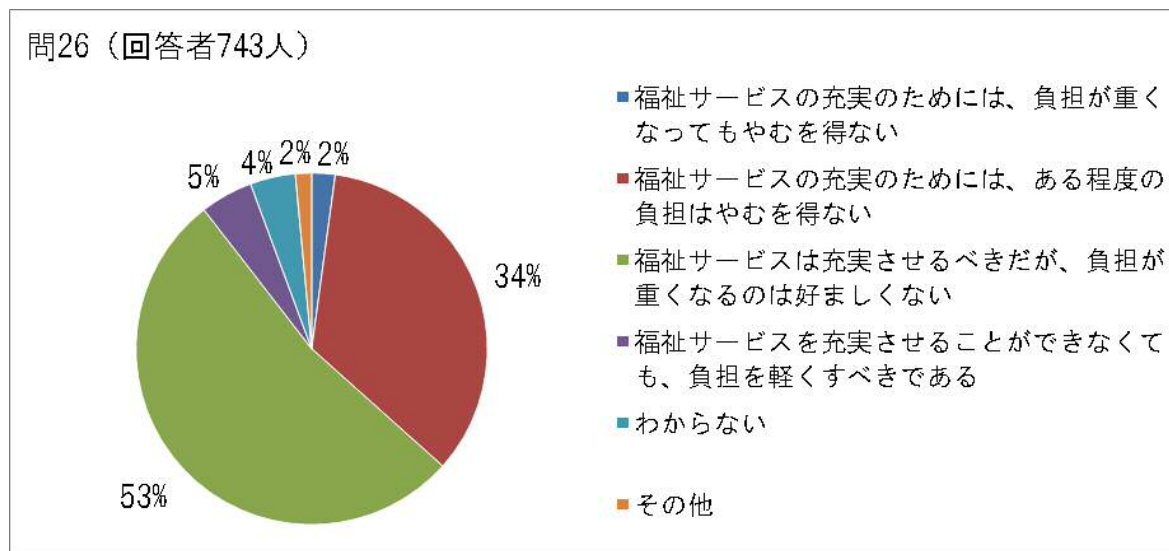
問 25：福祉分野における地域住民の助け合いを活性化するために、今後、市が優先して
 行うべき施策は何だと思えますか。(○は3つまで)

「身近な相談窓口の充実」が20%、ついで「高齢者や障がい者が在宅生活できる
 サービス内容の充実」が18%、「サービスを提供する事業所の整備・充実」が17%
 という結果になっています。



問 26：福祉サービスを充実させることと、その財源となる税金や保険料などの負担について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。（1つ〇で囲んでください。）

「福祉サービスは充実させるべきだが、負担が重くなるのは好ましくない」が53%、
ついで「福祉サービスの充実のためには、ある程度の負担はやむを得ない」が34%と
いう結果になっており、前回同様、中福祉・中負担を望む意見が約9割を占めています。



問 27：質問事項の他にお気づきのことがございましたら、ご自由にお書きください。

特徴的な意見

| No. | アンケート回答要旨 | 課題としての位置付け |
|-----|--|----------------|
| 1 | ボランティア的に何らかの「かたち」を、市として取り組むのはどうだろうか | ボランティアに対する取組み |
| 2 | 運動や栄養等の知識を広めて欲しい | 健康に関する情報の発信 |
| 3 | 医療費も節約したいと考えるなら、健康維持への勉強と努力は、老若問わず一人ひとりに与えられている課題と思います | 健康維持 |
| 4 | 福祉サービスなる前に、市民の健康 | 健康増進対策 |
| 5 | 体の動ける人は、自分の健康のためにも自立心を高める指導も大切に思います | 健康増進対策 |
| 6 | 行政と地域が協力しながら、対等に作り上げて行けるか考えて欲しいと思います | 行政と地域の協働 |
| 7 | 人生の終末を迎えたまでの人を、公的にあれもこれもと要求をしたならば、国の財政が持たない | 行政の役割 |
| 8 | 情報をもっと解り易く身近な情報機関があればと思います | 行政情報の発信 |
| 9 | 高齢者が子供たちと遊べる施設 | 高齢者と児童との関わり |
| 10 | 高齢者に対しての配慮 | 高齢者への配慮 |
| 11 | 福祉、高齢者、地域の防犯、いずれの対策に関し、市は各地域に頼り過ぎ。市職員が各地域に出向き、迅速な対応が必要 | 市職員の人材育成 |
| 12 | ある程度の負担はやむを得ないが、しっかりと説明をするべき | 施策の説明 |
| 13 | 子供も障がい者ものびのび楽しめる場が足りない | 児童や障がい者の受け皿づくり |
| 14 | 親は悩みながらいるので、相談、話が出来るところ、親のケアをしてもらえるところがあれば | 児童施策の充実 |
| 15 | この街だけではなく、道内の若者が熱くなることをしてみても | 若年層への働きかけ |
| 16 | 障がいのある子供たちがもっと開放された施設で教育を受けられる施設もあると良い | 障がい児の教育施設 |
| 17 | 地域の活動や行事等に参加したいけど、どこに行けばいいのか分からない | 情報の発信 |

| No. | アンケート回答要旨 | 課題としての位置付け |
|-----|--|---------------|
| 18 | 高齢者同士、地域の人達との情報交換、交流の場を作ってください。その情報を分かりやすく教えてください | 情報交換、交流の場の創出 |
| 19 | 市の相談窓口、地域包括支援センターなど、仕事で話しを聞く人に気持ちや知識が足りないと思う | 人材の育成 |
| 20 | 福祉は充実したが、若い世代への税金、保険料負担が増えては、それも社会的な問題になりかねない。将来的な先、先の事も見ながら、対策を行って欲しい | 世代間の負担見直し |
| 21 | 日常生活に係わる生活環境の維持、改善。災害時等避難経路の確保 | 生活環境の維持、改善 |
| 22 | 行政からの情報の発信はもっと必要。行政、社協等のバックアップで人材をたくさん育成して欲しい | 地域づくりを担う人材の育成 |
| 23 | 地域は高齢化が進み、町内会活動も停滞気味で困っている状態 | 地域の高齢化対策 |
| 24 | 私達の地域も高齢化が多くなっております。(70歳以上)みんなが力を合わせて住み良くしたいと思っています | 地域の高齢化対策 |
| 25 | 地域の課題や生活の課題で、今どんな課題があるのか等を、もっと地域の住民の方に情報発信していくことで、課題解決への協力を得る事が出来るのではないか | 地域課題の情報発信 |
| 26 | 地域福祉に貢献したいと考える人達が、いつでも参加できるようにその活動への門戸は広く開かれているというイメージを感じさせる事が必要であると思います | 地域活動の門戸の拡大 |
| 27 | 具体的にどこまで関わりを持つことが望ましいのか、限界が不明 | 地域活動への関わり |
| 28 | 各家庭の環境が違うので、全世帯参加は不可能であり、一部の町内会に積極的に参加する方達による、自主的な活動に任せるほか無いという現状である。そういった方への後方支援、活動費援助等で、行政が関与するしかないと思う | 地域活動への行政の後押し |
| 29 | 地域で出来る事には参加したり協力していきたい | 地域貢献 |

| No. | アンケート回答要旨 | 課題としての位置付け |
|-----|---|-------------|
| 30 | 町内会単位で、地域福祉を担う仕組みづくりを行政が主導していくのはどうでしょう | 地域福祉の仕組みづくり |
| 31 | 地域の福祉に関する取り組みは、地域単位で行う事が必要であり、行政に全て任せる事は不適切であると思います。 | 地域福祉の発展 |
| 32 | 役員の高齢化や一部の人間がずっと役員をやっていたり…世代交代も必要なのでは | 町内会の体制の見直し |
| 33 | 人、もの、お金がないと、組織は動かないと思う | 町内会活動の活性化 |
| 34 | 高齢者が多くなる中で、今の組織では限界が来ると思う | 町内会組織の見直し |
| 35 | 低所得者の自立支援について、本当に必要なのかを疑ってしまう人が多すぎます | 低所得者の自立支援 |
| 36 | お金だけではなく、人の手と心が増える事が一番理想であり、目標であってほしいです | 福祉サービスの充実 |
| 37 | チラシなどで（福祉の）情報提供をお願いしたい | 福祉に関する情報提供 |
| 38 | 実際に現場（福祉施設）で働いて、「社会的弱者」と呼ばれる方が気軽に参加できるような、地域の催し物、社会参加活動、ボランティア等が、苫小牧市の規模と人口を比較して少ないと感じました | 福祉に接する機会の創出 |
| 39 | 福祉に関しては、行政が出来る限り行うべき | 福祉施策の充実 |
| 40 | 高齢化社会の現在では、福祉サービスの充実化は絶対必要だと思います | 福祉施策の充実化 |
| 41 | 一人一人にあったサービスを受けれる環境を作り、市の補助もしっかり出し、働いている人の事も考えていかないと、サービスする側がつぶれます | 福祉職の処遇改善 |
| 42 | 人と人とのつながりが、もっと強い街になってほしい。自分自身も、努力すべき | 絆の創出 |